

火災!逃げ遅れを防げ!

増加している高齢者住宅火災

監修

東京理科大学
火災科学研究センター長
東京大学名誉教授
工学博士 菅原進一



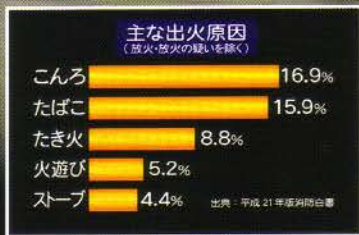
フラッシュオーバー現象



発火する



火災延焼実験



企画意図

近年、全国的に住宅火災による死者が急増しています。特に犠牲者の方の大半が65歳以上の高齢者です。就寝中に火災に遭遇することで発見が遅れ、逃げ遅れることが原因で死亡するケースが増加の一途をたどっています。そのため、平成18年6月からの消防法施行では、全国すべての住宅に対して住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

そこで、本作品では、最近、火災が発生した65歳以上の高齢者宅の事例を取り上げ、何故、高齢者は逃げ遅れるのか、様々な火災実験を通して検証し、住宅用火災警報器の普及と、火災を未然に防ぐ方法を考えていくものです。

作品の概要

■119番通報！緊迫する通信情報センター

深夜、通信情報センターに119番通報が入って来る。応答する担当官と通報者との緊迫したやりとり。すぐに出動する消防隊の動き。住宅火災は深夜から明け方にかけてが最も多い。住宅火災の原因で多いものは、どのようなものだろうか？

統計によると家庭の中での火災原因で、コンロは常に上位を占めている。そのコンロ火災の中で、最も多いのが天ぷら油火災。また、着衣着火による火災だ。天ぷら油発火実験、着衣着火実験によって、コンロ火災の恐ろしさを描く。

■恐怖の瞬間、フラッシュオーバー現象

火災の過程で、ある瞬間、一気に炎が噴き出すフラッシュオーバーと呼ばれる現象。その恐怖の瞬間は、出火して、どのくらいの時間で発生するのだろうか？火災の延焼実験を通して検証していく。フラッシュオーバーが起こってしまったら、殆ど逃げる機会を失ってしまう。この現象は、どのような条件の時に起こるのだろうか？専門家に語ってもらう。

■住宅火災の6割が逃げ遅れで死亡

住宅火災の死亡原因の約6割が逃げ遅れ。その半数以上が65歳以上の高齢者である。高齢者は、なぜ逃げ遅れるのだろうか？実際の火災現場での取材によると、第一発見者は死亡した住民の声を聞いている。出火した当時、火災に気づき、声を出していた住民は、なぜ逃げ遅れて死亡してしまったのだろうか？

■火災で亡くなる大半が一酸化炭素中毒死

火災が起り、避難しようとした時、炎よりも先に煙が行く手を塞ぐケースが多い。煙が視界を遮り、逃げる方向を見失ってしまうのだ。そして煙の恐さは、その中に含まれる一酸化炭素という有毒ガスの恐さでもある。一酸化炭素は無色透明。一酸化炭素を吸い込むと、人間の体内では、どのような症状が起こり、死に至るのだろうか？ラットの実験で検証してみよう。

様々な実験により、火災で亡くなる高齢者の多くは、煙で逃げ場を失い、煙を吸って、一酸化炭素中毒で身体が動かなくなり、炎に巻き込まれていることがわかる。では住宅火災犠牲者を出さないようにするには？

■住宅火災を未然に防ぐ4つのポイント

住宅火災を未然に防ぐ4つのポイントを実験映像を

交えて描いていく。

火災を出さない。火災を早く知る。火災を広げない。火災を早く消す。

新しくスタートした長期使用製品安全点検制度についても説明。古い扇風機から出火する映像を見せて、長く使っている電化製品にも要注意であることを訴える。

■住宅用火災警報器設置の義務

住宅用火災警報器を設置していたことで、火災を未然に防いだお宅も取材する。住民の生の声から、住宅用火災警報器の重要性を強調する。義務化されている住宅用火災警報器、その種類、設置する場所、設置の仕方などわかりやすく説明する。

監修 東京理科大学 火災科学研究センター長
東京大学名誉教授
工学博士 菅原進一

協力 仙台市消防局 仙台市青葉消防署
経済産業省
(独)製品評価技術基盤機構
日本医科大学 法医学教室
東京ガス株式会社

映像提供 長野県消防学校
千住スプリンクラー株式会社

制作・脚本・監督 高木裕己

撮影：松尾研一/選曲：HIROMI/演出助手：阿部伸太郎/本編集：鳥井真央/イラスト：正者章子/MAスタジオ：ショー・スタジオ/ナレーター：伊藤富美也

制作著作 株式会社映学社

¥68,250(税込)

VHS・DVD [カラー21分]

DVDには字幕付き映像も収録されています
(VHSには字幕付き版もあります)

●お問い合わせ、お買い上げは……

 株式会社映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-2池与ビル3F
TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>